

第51回 近畿・北陸・東海ブロック合同

障害児教育学習会



「ともに学び、ともに育つ」
地域と学校づくりをすすめるために



第2分科会

その後は、四つの分科会で各府県の実践発表及び研究会が行われ、どの分科会も熱心な討論がなされました。夜の交流会は、他県の参加者と情報交換を行いながらの楽しい会となりました。

7月28日(金)・29日(土)の両日、大阪で第51回近畿・北陸・東海ブロック合同障害児教育学習会が開催され、本県から11人の先生方が参加しました。全体会では、まず日教組障害児教育部の坂千代子さんから、子どもの数は減少しているのに特別支援の子どもは増加していることや次期学習指導要領では「資質・能力」に特化されていること等の情勢報告がありました。その後、映画「みんなの学校」を企画した関西テレビの迫川みどりさんによる「インクルーシブ教育をすすめるために」という講演が行われました。「みんなの学校」を視聴した後の話の中で、学校は色々な人と交わって成長するところであり、障害児を分けることは通常学級の子が学ぶ機会をも奪っていることと訴えられました。ちよつとでも気になることがあつたら早期発見として就学の時に分けられてしまう実態は、分ける教育になっているとも指摘されました。そして、今後とも、共に学ぶことの意義や価値を伝えていかなければならないとまとめられました。



迫川みどりさんによる記念講演

<参加者の感想>

○「みんなの学校」で、大空小学校の取り組みを拝見しました。校長先生を筆頭にして、全職員が力を合わせてインクルーシブ教育に頑張っている姿に感動を覚えました。私の学校が少しでも大空小学校に近づけるように、今後努力していきたいと感じました。また、分科会では、インクルーシブ教育について熱のこもった話し合いが行われました。各府県によって現状は様々でしたが、目指す所は、どの府県も同じです。インクルーシブな社会実現に向けて、日々努力せねばと再確認しました。



- インクルーシブ教育のテーマのもと、各府県の現状とそこで取り組まれる実践が次々と報告された。普通学級の実践と異なり、特別支援学級の実践は在籍する児童生徒の障害種や在籍数の規模等によってふれ幅が大きく、一つ一つの実践カリキュラムはたいへん個性的であった。少しでもインクルーシブに向けて取り組みを進めていこうとする教師の姿には心を打たれた。
- 夜の交流会で他県の教育事情の情報交換ができたことが有意義だった。同じく特別支援教育で悩みながら進んでいる教員との話し合いでエネルギーをもらうことができた。